

前回のリーベル通信に息子の記事を掲載していただき、リーベルの方と相談して大きな抱き枕等をプレゼントしてくれたことを知りました。記事を読んで思わず涙が…。思い起こせば小学校での不登校、期待して入学した中学校でもいじめにあって、親子で心を痛めましたが、一番大変だったのは本人。高校は片道3時間かけて通信制の高校に3年間で100回以上通いました。卒業式の日にその遠さに「こんなに…よく頑張った」と胸が熱くなりました。大学を卒業後は、自動車学校に行き何とか免許を取得。その後リーベルのお世話になり、就労移行支援事業所をいくつか見学して、みやま市の事業所に2年間お世話になりました。そこで様々な体験を積ませていただき、運よく地元の企業に就職させていただくことができました。たくさんの皆さんの支えがあって、今があることを忘れずに、これからも元気に頑張りたいと思います。また、これまでお世話になったリーベルの皆様はじめその他の関係機関の皆様にご心から感謝いたします。ありがとうございました。

最後に我が家にはもうひとり障がいをもつ子どもがいます。あるとき目にした詩に心打たれましたので、皆さんにご紹介させていただきます。そして、一言「神様、3人の息子達を授けてくださりありがとうございました」

天国の特別な子ども

会議が開かれました。
地球からはるが遠くて
“まだ次の赤ちゃん誕生の時期ですよ”
天においでになる神様に向かって 天使たちは言いました。
“この子は特別な赤ちゃんで たくさんの愛情が必要でしょう。
この子の成長は とてもゆっくりに見えるかもしれませんが、
もしがして 一人前にならないかもしれません。
だから この子は下界で出会う人々に
とくに気を付けてもらわなければならないのです。
もしがして この子の思うことは
なかなか分かってもらえないかもしれません。
何をやっても うまくいかないかもしれません。
ですから私たちは この子がどこに生まれるか
注意深く選ばなければならないのです。
この子の生涯が しあわせなものとなるように
どうぞ神様 この子のために素晴らしい愛をさしてあげてください。
神様のために特別な任務をひきうけてくれるような贈物を。
その二人は すぐには気がつかないかもしれませんが、
彼ら二人が自分たちに求められている特別な役割を。
けれども 天から授けられたこの子によって
ますます強い信仰やとてつもない愛をいかにすることでしょう。
やがて二人は 自分たちに与えられた特別な
神の恩恵をささとするようになるでしょう。
神からおくられたこの子を育てることによって、
最初はおだやかなことという優れものこそ
天から授けられた特別な子どもなのです。”

Edna Massimilla 作
大江 祐子 訳

～H・Kさんのお母様より～



～新入職員のかい～

10月より基幹相談支援センターにて勤務している永松です。相談業務は未経験ですが、新人ならではのフレッシュな感覚を大切にしながら日々勉強中です。早く皆さまのお力になれるよう頑張りますので、よろしくお願いします。



～編集後記～

出張先のホテルの部屋を『シングル』で予約していたのですが、部屋にはベッドが3つもあり動揺してしまいました。ホテル側の都合で急遽用意できた部屋がこしかなかったとのことでした。ただ、1人で利用するには部屋が広いし落ち着かなかったです(笑)。

★T・S★

☆☆☆ホームページのご案内☆☆☆

当法人のホームページでは、八女地区の福祉事業所の情報や空き情報、地域からのお知らせ、会議や研修報告等、様々な情報を発信しています。ぜひ、ご活用ください！

事業所の情報や空き状況に変更があった際は、お知らせください



～障がい者が虐待を受けたり、受けている所を目撃した際はご連絡ください～

八女市障がい者虐待通報ホットライン ☎090-2580-0294 (24時間・365日の対応)



発行責任者:NPO法人 リーベル
電話:0943-22-2610
FAX:0943-22-2664

住所:八女市本町17-2

E-mail:liber-yame@marble.ocn.ne.jp

URL:http://liber-yame.net

リーベル通信

～色、味させるプロジェクト～

今年度より、「色、味させるプロジェクト」という名称で、八女地区の障がい児・者によるアート作品展示・販売プロジェクトを始動しました。八女市のイベントにも参加させていただき、アート作品の展示や就労支援事業所等による販売会を実施しました。

★11月16日★ 「スポーツ・健康づくりフェスタ」



★12月6日★ 「スマイルフェスタ」



今後も定期的に開催をしていきます！このプロジェクトを通じて、地域で生活されている障がい児・者の方々のことを知っていただくとともに、地域の皆さまとの交流や繋がりを育んでいきたいと思っております！

そう だん 相談ビズケット

11月19日に地域の医療ケースワーカーとの研修会を開催。6医療機関13名、10相談支援事業所20名、他基幹、行政を含め38名の参加。初めに、お互いの役割の紹介と自己紹介、その後グループに分かれての意見交換を行いました。

医療機関からは「退院前の相談をいつの段階で、どこにすればよいか?」、相談支援事業所からは「退院前の会議に呼んで欲しい」「通院状況を確認したいが、教えてもらえるだろうか?」など、日頃疑問に感じていることの意見交換ができました。互いに連携したい思いはあるものの、どこの誰に相談していいのかわからない状況が、今回顔合わせが出来たことで、連携の第1歩になったと思います。今後も、地域で顔の見える関係機関を多く作り、支援体制をより充実させたいと思います。



アウトリーチサポートチーム

令和5年に福岡市東区第1障がい者基幹相談支援センターセンター長(福岡県相談支援体制整備事業アドバイザー)池田顕吾氏より、グループスーパーバイジョン(以後GSV)のレクチャーを受けて以降、アウトリーチサポートチームや相談ビズケットの活動の中で実践してきました。今回、GSVの方法を一部変更されたことに伴い、新しい方法を学ぶため、11月5日に再び池田氏に来ていただきました。講義後、事例報告者(スーパーバイザー)とその他参加者(スーパーバイザー)に分かれて実践を行い、流れの確認を行いました。GSVを通じて、事例報告者は、自分では気づけなかった多角的な視点や個人の価値判断に依存しないことの重要性を知ることができました。また、参加者全員がチームとして学びを深め、振り返りを行うことで、事例提供者個人の課題をチームの課題として分かち合いながら、支援を継続していく大切さを再確認しました。



ぶ かい こども部会

令和6年度より再始動したこども部会。初回となる部会活動を11月7日に開催し、幼稚園、保育園・小中学校・福祉事業所等から53名の方に参加していただきました。はじめに、特別支援教室室長鶴欣二氏と筑後特別支援学校教諭秋山辰郎氏より、「八女市のこどもたちの現状」についてお話いただきました。その後、本質観取という哲学的な手法を用いて、「良い学校」をテーマにグループワークを実施しました。教員、保護者、かつての学生としての自分など、それぞれ違った立場から意見を出し合い、良い学校に共通するキーワードを深堀りしました。各グループからの発表では、「地域で安心して育てられる」「許容範囲がある」「自分のことが好きになれる」「居場所が確保できる」「自己決定、成長をサポートしてくれる」等のキーワードが出ました。シンプルなテーマでありながら、本質を突くキーワードが多く挙げられ、深いワークを行うことができました。



ち い き かつ どう し え ん 地域活動支援センター かたろい

『かたろい』は障がいをお持ちの方が、安心して過ごせる日中の居場所です。様々な活動を通して、楽しさを実感しながら、チャレンジする気持ちや達成感を育む「自信の向上」、他利用者や地域の人たちとの「他者との繋がり」、自分らしさを表現する「自己表現」、そして、「地域貢献」を体感していただける場を目指しています。また、相談対応も行っており、利用される皆さんが、地域で「自分らしく」「安心して」暮らしていけるようサポートいたします。

<ご利用について>

- 利用料金:無料(※事前登録が必要です)
- 開所日:火曜～金曜、第1, 3, 5日曜、第2, 4土曜
- 開所時間:11:00～17:00(火曜のみ18:00まで)

Instagram
【かたろいInstagram】



@KATAROI24

フォローお願いします!



野球観戦



しめ縄作り



八女市卓球大会出場



地域の清掃活動(ゴミ拾い)

地域イベント参加
福岡八幡宮大しめ縄
作りに挑戦!



地域交流!「かたろいの森」
eスポーツ&マルシェ



「洗車活動」就労準備訓練



「かたろい」
自己表現の場、
共通の経験を持つ者同士のつながり



「きん木せい」女性だけの料理活動



アートを通じた交流、地域との繋がり

けんりようごぶかい 権利擁護部会

毎年、福岡県が開催する「障がい福祉サービス事業所等支援者研修」の周知および受講者の確認をしながら、啓発をしています。また、権利擁護に関する理解を深めるために構成委員で事例検討会を行っています。構成員は相談支援事業所、障がい福祉サービス事業所、雇用関係機関等です。

か だいかいけつがたが かい せいしんしょう しゃ たいおう ちい きほうかつ 課題解決型部会(精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステム)

地域で障害福祉に携わる機関、病院、保健所等が連携し、精神障がい者も地域で暮らしやすい体制を整えるために取り組むべき活動の協議を行っています。

かいさいほうこく ペアレント・トレーニング、ティーチャーズ・トレーニング開催報告

今年度も社会福祉法人日本厚生学園りんどう内田文恵氏を講師に、ペアレント・トレーニングは2名、ティーチャーズ・トレーニングは4名(福島保育所と北山保育所の先生)の方が受講され、皆さん、終了証を受領されました。受講者の感想を少しご紹介します。



～ペアレント・トレーニング～

- ・自分の気持ちに余裕がない時、このペアトレで学んだことを実践しながら子どもと向き合えたことがとても助かり、心が軽くなりました。自分の笑顔と子どもの笑顔が増えたのが嬉しかったです。
- ・参加していくうちに夫とも「ここはこうすれば良い」など相談することも増え、今では怒鳴ることは全くなくなりました。子どもも自分から行動することも増え、私も楽になりました。

～ティーチャーズ・トレーニング～

- ・支援が必要な子だけでなく、定型発達の子にも通じる部分が多く、自分自身の保育観が変わりました。楽しかった保育が、より楽しんでできるようになりました。同じクラスの先生たちとも共有しながら、保育士同士「ほめの貯金」を意識できるようになり、クラスの雰囲気もより良くなりました。
- ・行動の分析をすることで、その子自身の理解がより深まりました。25%ルールと無視の合わせ技で、まず私自身の気持ちにゆとりができ、子どもも25%でほめてもらえることで笑顔が増えました。

れもんぐらす (こ はったつ き ほごしゃ かい 子どもの発達が気になる保護者の会)

11月4日、やめっこ未来館で「れもんぐらす」を開催。「同じ様な悩みを持つ保護者の方との関わりがほしい」「就学の事で不安な事がある」「日頃の悩みなど気軽に話せる場がほしい」といったお声を頂き、今回は、心理士の幾野先生をお呼びして、おしゃべり会を開催しました。5名の保護者の方が参加。少人数であった事もあり、和気あいあいとした雰囲気でも話はずんできました。「不安に思っている事を聞けて良かった」「みなさんの悩みも聞けて良かった」「沢山相談に乗ってもらって嬉しかった」「次回もぜひ参加したい」等のご意見が寄せられました。

時代の変化と共に、地域での状況や保護者同士の関係も変化している中、このような集まりの場の大切さを改めて感じます。今年度の取り組みを、今後の活動に活かしていきたいと思っています。



令和7年度 八女筑後・久留米圏域

委託相談支援事業所情報交換会

11月14日(金)に広川町役場にて「令和7年度八女筑後・久留米圏域委託相談支援事業所情報交換会」が開催され、委託相談支援事業所より55名、自治体より11名の参加がありました。

はじめに各自治体より地域自立支援協議会の取り組み状況や地域生活支援拠点の整備状況等について報告があり、地域により整備の状況や進捗具合に違いがあることが理解できました。

次に各班に分かれてグループワークを行いました。グループごとに設定されたテーマ①就労選択支援②他機関連携(他市町村連携)③人材育成④地域移行とグループホーム⑤支援に繋がらない世帯⑥兄弟とヤングケアラー・不登校児童)で、意見交換、情報共有を行いました。それぞれの地域の課題や現状、実際の取り組み等について知ることができ、とても有意義な時間となりました。

研修会終了後は、「風と虹の店」で懇親会もありました。食事をしながら地域を超えた交流ができ、とても楽しいひとときとなりました。



リーベルネットワーク会議

9月26日に今年度1回目のリーベルネットワーク会議を開催し、約50名の参加がありました。

はじめに報告事項として①今年度の各部会等の活動状況、②6月に開催した八女市障がい者等自立支援協議会、③就労選択支援について制度の概要と八女市の状況について報告しました。また9月2日に就労事業所(13事業所19名)の方々に集まっていただき、就労選択支援について意見交換会を実施しました。八女市でも次年度、部会を立ち上げ、就労全体の意見交換の場を設けたいと思います。

次に「色、咲かせるプロジェクト」(八女地区の障がい児・者によるアート作品展示販売)の活動報告と今後の予定についてお伝えしました。事業所の皆様、今後も活動へのご協力、よろしくお願いいたします。

最後に八女市障がい者基幹相談支援センターがスタートして10年を迎え、当センターに対しての意見や要望等、そして参加された方々が考える八女市の障がい福祉における地域課題について、グループワークを行い、皆で共有しました。参加された方々には当センターの役割を理解してもらいながら、障がい者福祉の中核である基幹相談支援センターとして、どのようなことが求められているかを再認識する内容となりました。地域課題としては、利用者の高齢化や人手不足、不登校、山間部の地域資源の乏しさ等、様々な意見があがりました。課題に対して、何ができるか考えることが第1歩だと思います。部会などを活用して意見交換の場を作っていきたいと思います。

